



港ににぎわいを取り戻したい!  
竹野港海町マーケットの仕掛け人  
永田兼彦さん(62歳)竹野町竹野



竹野地域を代表する人気イベント「竹野港海町マーケット」。その仕掛人が永田兼彦さんです。  
但馬漁業協同組合竹野支所の運営協議会の一員である永田さんは、漁師の高齢化や後継者不足で、漁協や町のにぎわいが低下していることに心を痛めていました。港一帯にかつてのにぎわいを取り戻したいと考え、平成28年2月に竹野振興局や観光協会などと協議を重ね、港町の特徴を生かした住民向けの市を開催しようとの結論に至りました。

「できる範囲でやっつけていこう。できることをすぐにやろう」。熱い思いを胸に、さまざまな団体と協力し、同年4月から、週1回の魚介類の直売市を開催。翌年からは、より幅広い商品を取り扱い、対象を広げた「海町マーケット」へと発展させました。  
「このマーケットは、多くの人に支えられて成り立っている。本当にありがたい」と関係者への感謝を口にする永田さん。「今後もできる限り続けていきたい」と笑顔で意気込みを語りました。

Toyooka Topics —とよおかの“旬”な人と話題—



▲稲葉さんと缶作品を制作する出高生

CANETTE—稲葉猛作品展—ワークショップ  
出高生が空き缶で缶作品を制作

6月7日、市立美術館「伊藤清永記念館」で、出石高校の文化創造類型(美術)を選択している3年生16人が、空き缶(CANETTE)を利用した缶作品の制作を体験しました。

これは、7月1日(日)まで同館で開催している稲葉猛作品展に合わせたものです。パリ在住で但東地域出身の稲葉猛さんが自身の展示作品を説明し「考えながら作品を作ってほしい。空き缶からでも作れる」とアドバイス。その後、生徒は、はさみなどで空き缶を切り、作品を制作しました。

参加した清水健太さんは「母校の先輩が世界で活躍していることを誇りに思う。作品は立体感の出し方が難しかった」と話していました。

田結わかめ祭り  
神水わかめにサザエ漁体験も

5月20日、田結漁港わかめ干場で、第19回田結わかめ祭り(主催・同実行委員会)が開催され、子どもから大人までが神水わかめを味わいました。

毎年恒例、わかめしゃぶしゃぶの鍋の前には、コリコリのわかめをおいしそうに食べる笑顔があふれました。炊き上がった餅米に乾燥わかめを混ぜてついたわかめ餅はきな粉をまぶして売られ、つき上がる度に完売と、人気を博していました。

さらに今回は、サザエ漁の体験コーナーが設けられ、子どもたちが水中眼鏡で水の中をのぞきながら一生懸命サザエを突いていました。何人もが苦戦する中、中筋幼稚園の坂本篤紀君(4)はあっさりとサザエを採り「簡単だった」と笑顔でした。



▲サザエ漁を体験